

部 門	※5部門のうちいずれかを記載下さい。発表主旨に比較的近いと思われる部門に登録下さい。		
	④河川の維持管理等における工夫事例		
課 題 名	彼杵川における地域と連携した簡易魚道の設置について		
所 属	長崎県 県北振興局 建設部 河川課		
発 表 者 役 職・氏 名	主任技師 松本 崇寛	連絡先	0956-23-4211
河 川 名	彼杵川水系 彼杵川 二級河川	工 期	令和6年度 ~ 令和7年度
所 在 地	長崎県 東彼杵郡 東彼杵町 三根郷	彼杵川 1.7km付近 左岸	
計 画 高 水 流 量	430m ³ /s		
事 業 名	地域連携等		

【設計コンセプト】

◆多自然川づくりを実施した経緯

彼杵川は、長崎県のほぼ中央部に位置する川棚町および東彼杵町北部の町境にある虚空蔵山を水源とし、東彼杵町の田園地帯および市街地を流下した後、大村湾へと注ぐ、流域面積25.36 km²、延長約8.2 kmの長崎県管理の二級河川である。当該河川に設置されている魚道は、平成9年に整備されたものであるが、これまでの豪雨や洪水の影響により、魚道内部に土砂が堆積し、機能不全の状態に陥っていた。本事例では、彼杵川において環境保全活動を行っている地域住民との連携のもと、生態系の保全を目的として、新たな魚道の設置を実施した。

◆目標

- 生物の円滑な遡上および降下を可能とする環境を整備することで、多様な生態系の維持および再生を促進する。
- 他河川にも適用可能な「汎用性・再現性の高い簡易魚道モデル」を構築する。

◆配慮した点、工夫した点、アピールポイント等

- 自然素材の活用：魚道においては環境負荷の少ない木材を使用し、地域住民によって実施された実証実験の成果を反映させた構造とした。
- 官民学の協働：行政・地域住民・研究者が一体となり、計画立案から設置・監視までを共同で実施。他河川の先進的な「モデルケース」となり得る。
- 河川整備：河川の治水機能および生態系の保全を目的として、堆積土砂の除去を行政において実施した。
- コスト低減：魚道整備には通常、多額の土木工事費用を伴うが、地域の協力により低コストでの機能回復が図れた。

◆その他

- 魚道設置後の機能評価として、生物の遡上・降下の状況および出水後の構造的健全性について「官民学」一体となって監視、維持管理を実施していく。
- 本事例で導入された簡易魚道の設置を通じて、同様の課題を抱える他河川においても生態系保全を目的とした取り組みの展開を図っていく。

